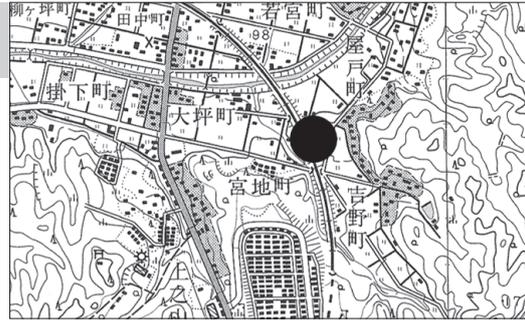


よしの
吉野遺跡

所在地 瀬戸市吉野町
 調査理由 瀬戸環状線建設
 調査期間 平成13年1月～3月
 調査積 260㎡
 担当者 北村和宏・小澤一弘・魚住英史



調査地点 (1/2.5万「瀬戸」)

調査の経過 吉野遺跡は瀬戸市吉野町に所在する古代から近世にかけての複合遺跡で、調査は瀬戸環状線建設のための事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成13年1月から3月にかけて調査を実施した。

立地と環境 矢田川左岸の沖積地で、調査区の南西方向には愛知環状鉄道が通り、矢田川にそそぐ吉田川の右岸でもある。丘陵ぎわから沖積面にかけて現在は水田・畑地となっている。南側には古墳時代の集落跡とされる吉田遺跡が所在し愛知環状鉄道の敷地工事の際土器が出土したとされる。

調査の概要 本年度の調査は愛知環状鉄道沿いの三角形を呈した調査区で上下の2面調査となった。上面では近・現代の水田に伴うと思われる溝4条と中世の溝(SD 03)1条を検出した。SD 03は調査区中央をほぼ南北に走る幅50cm、検出面からの深さ10cmから40cmを測り南側から北側へ流れていた。黒褐色粘質土と褐灰色粘質土が混じった埋土からは南部系山茶碗片などが出土した。

下面からは調査区東側から西側いっばいに広がる旧流路(NR 01)を検出した。

NR 01の調査区東側部分から、数本の芯持ちの丸太立杭と横木を組み合わせた柵状の構造をなした柵状遺構を、東西約2m中で南北約10mの範囲で検出した。NR 01の肩部より廻間(式)期に考えられる高杯片が出土している。

(小澤一弘)



下面全景



柵状遺構全景